

我が家のお米がおいしいわけ

竹原市立竹原中学校 二年 林内恵理衣

「えっ、お米ってスーパーで売ってるん

と、いう私の言葉に母は、

「そんなことも知らなかったの」

と、驚き大笑いしました。

私は、今までお米がスーパーに売られてい  
ることを知りませんでした。なぜなら私はス

ーパーでお米を買ったことがないからです。

お米がスーパーで売られている所も見たと

がありません。

私の暮らしている地域ではお米を自分達で

作っています。地域の人みんなで組織してい

る農事組合が、田植えから収穫まで協力しお

いしいお米を生産しています。私が学校に登

校する朝早い時間も田んぼで地域の人が草刈

りをしています。我が家にも田がありますか

両親は勤めに出ているので田の世話をするこ

とができません。だから農事組合にお願いし

てお米を作ってもらっています。そして、毎

年秋にぼると一月分のお米を農事組合から買  
って家の納屋に保管しています。ですから、  
スーパリーでお米を買う必要はないのです。  
そういえば、他県に住む祖父母や親戚が我  
が家にやって来た時はいつも、  
「ここで食べる米はおいしいねえ。」  
と言ってくれます。スーパリーで買ったお米と  
我が家のお米の違いの一つは精米です。スー  
パリーで売っているお米は、精米してしばらく  
経っているお米なので鮮度が落ちていて味も  
落ちるそうです。私の家では、食べる直前に  
玄米を精米し、ご飯を炊いています。  
「精米したてのご飯が食べられるなんて贅沢  
なんよ。」  
と、母は言います。こんな母との会話から、  
私は、毎日食べているお米のおいしさか当た  
り前ではないことに気づきました。  
私はこれまでお米に関する地域の行事に参  
加してききました。例えば、田植え。一日中か  
けて稲を植え、田植えの大変さや、植え終わ

った時の達成感を知りました。田んぼアート  
を行った年もあります。アンパンマンなどの  
キャラクターを田んぼに彫り、少しおつ  
成長する稲を見ることは毎日の楽しみでした  
それから亥の子。亥の子は、十一月の最初の  
亥の目に行われる行事で、田の神様をお祀り  
する収穫祭です。みんなで稲がとれたことを  
喜び、わらで作った「亥の子」を持って地域  
にある全ての家を一軒一軒巡りました。玄関  
前で、

「繁盛せい、繁盛せい」。

と、「亥の子歌」を歌いながら「亥の子」で  
地面をつき、終わると子供達はおこづかいを  
もらえるので楽しみな行事でした。  
でも、最近では新型コロナウイルス感染症や  
高齢化の影響で行事を行うことが出来ていま  
せん。私は、今まで毎年あったことかなくな  
っていることに気付いて、少し悲しい気持ち  
になりました。行事の一つ一つが地域の強い  
絆を感じさせてくれていたのです。

「おはよう。」

「お帰り。」

と、毎日声をかけてくれ、見守ってくれてい  
る地域の人達。その人達が汗を流して作って  
くれたお米を私は食べています。ほんて幸せ  
なことでしょ。そして、そう思うとお米は  
ますますおいしいと感じられてきます。私の  
家のお米がおいしいわけは、精米の違いかけ  
ではなか、たのです。

考えてみると、私は今まで地域の人にお米  
を作ってくれてありがとうと伝えたことがあ  
りません。だから、まずは、おいしくいたが  
くことが精一杯の感謝の形だと思っ、てこれか  
らも米粒一つ一つを大切に、して食べていき  
たいです。

そして、今度地域の人に会えた時にはきち  
んと言葉で伝えたいです。  
「おいしいお米をありがとう。」